

人生のエンディング 家族と話し合ってみませんか

あなたは自分の人生のエンディングをどうしたいか考えたことがありますか？
人生の最後は自宅で迎えたいのか。延命治療を希望するのかもしれないのか。
臓器提供を希望するのかもしれないのか。どれも大事なあなたの意思です。
若い方や健康な方は「死」をあまり意識しないと思いますが、家族があなたの
意思を尊重できるよう、あなたの気持ちを伝えましょう。



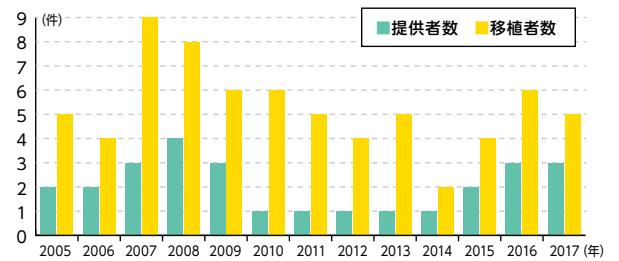
県内の臓器移植

県内では、腎臓と角膜の移植が可能ですが、平成29年6月末現在、
県内で移植を希望している方は、腎臓が222名、角膜が43名となっ
ています。昨年県内で移植を受けられた方は、献腎移植6名、角膜
移植7名となっています。

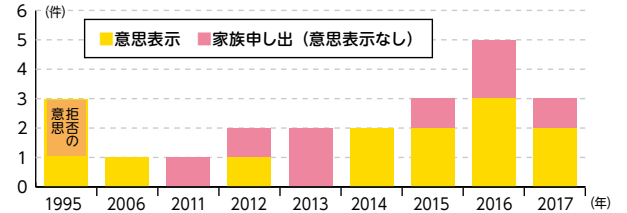
日本臓器移植ネットワークによると、献腎移植までの平均待機期
間は約14年7ヵ月で、今なお多くの方が、移植を待ちながら、闘病
生活を送っています。

※献腎移植とは亡くなられた方から提供される腎臓移植です。

県内の臓器提供者数と献腎移植者数 ※2017年6月時点



意思表示および家族申し出の年次推移 ※2017年6月時点



家族と話そう

平成22年7月の改正臓器移植法の施行後、本人の意思が不明な
場合でも、家族の承諾があれば臓器提供が出来るようになりました。
この7年間に脳死で臓器を提供された方は全国377名で、その内約
77%が家族の承諾による提供となっています(平成29年7月末時点)。

本人の意思が不明な場合は、残された家族が深い悲しみの中で、
臓器の提供について決断せざるを得ないケースが少なくありません。
また、本人の臓器提供の意思表示があっても、家族の承諾が得られ
ない場合は、提供することができません。

「提供する」「提供しない」、どちらも大切な自分の意思です。また、
その意思は、いつでも変えられます。まずは、運転免許証や健康保
険証の裏などに意思表示をし、ご家族や大切な人に「今のご自分の
意思を伝えてください。」

沖縄県臓器移植コーディネーターに聞いた 「家族の承諾理由」

- 本人の意思を尊重したい
- 母(私など)なら臓器提供していた
- 最後に社会貢献ができれば
- 一人でも多くの方が助かるのなら



意思表示はこちらから



臓器移植を知るシンポジウム 2017

「意思表示 つぎにつながる 第一歩」をキャッチフレーズに、献腎・心臓移植体験者
発表や沖縄県における移植医療を振り返るパネルディスカッション等を行います。

日時 10月29日(日)
14:00~16:00

場所 県立博物館・美術館 講堂

問い合わせ

県地域保健課

電話: 098-866-2215

FAX: 098-866-2241



1030 World Uchinanchu Day

10月30日は「世界のウチナーンチュの日」

